



第78号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

(E-mail)

matsuoka@kosanji.or.jp

暑からず寒からず、仏法修行のよき時節

この言葉は蓮如上人が吉崎で彼岸の法要を勤められた時におっしゃられ御文の中にも出てきます。

最近になりよく感じるのですが、仏法だとか、仏様の教えだとかいっても現代社会を生きる我々にはなかなか密接したものにならないように思います。もちろん親鸞聖人の教えといっても、話している方も聞いている方も体の中にしみわたっていかない。

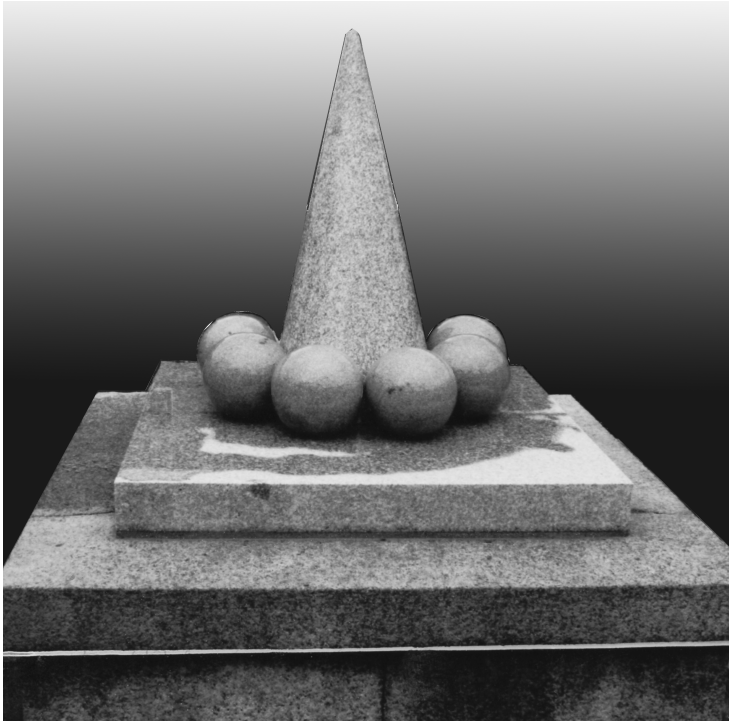
目先のことで手一杯、まあまあ幸せだということだけで日々の生活を消費している。そして本当の苦しみはまだまだ先の方にあると思ひ込んで、今が良ければそれ

でいいと。本当の苦しみとは、何をしてもどうしようもない絶望の時です。希望がなくなる時です。そんな時が必ず来ます。

私たちは自分自身の本当の苦しみに対して仏教があることも忘れてしまっているのではないのでしょうか。

本当の苦悩が自分の身に起こった時のために仏教はあるということだけでも、この彼岸に確認しておきたいものです。





正面(東側)

合同墓「二乗道」改修と

そのデザインについて

秋田芳廣

住職から、近ごろ合同墓を利用される門徒の方が多いので改修したいがどのようにしたらよいかと、話がありました。

現在は、上部にある重

い石の蓋ふたをこじ開けて、

お骨を落とし込むという

誠に不便な方法がとられ

ていました。

そこでまず、お骨を入

れ込むところを西側の上部に穴をあけ、窓をつけて入

れるようにしました。そして上部は全面蓋をして六つ

の真球の石を並べました。これは南無阿弥陀佛の六文

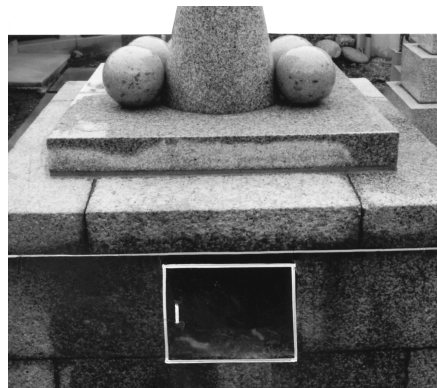
字を表しています。

その中心に円錐形えんすいけいの石を配しました。これは人が往

生して西方浄土の向かっていく様子を意味しています。

墓の古いイメージを改め、五十年、百年先も浄土真

宗の「心」が理解できるデザインを心がけました。



お骨入れ口(西側)

真宗本廟収骨へ

しんしゅうほんびようしゅうこつ

前住職が亡くなり三年、前坊守が亡くなりもうすぐ二年になります。お骨の半分は満中陰法要後に廣讚寺の一乗道（合同墓）に納骨しました。そして今年七月三十日に東本願寺へ真宗本廟収骨をいたしました。かつては須弥壇収骨と言われておりました。いわゆる御影堂に安置されている親鸞聖人の御真影の下に収骨するのです。

本山に着き参拝接待所に向かいました。その受付で前住職、前坊守のお骨を職員に渡しました。そして職員がお骨を七センチ四方の桐箱に入れて盆に乗せて御影堂の裏まで移動します。墨袈裟を付けた式務の人が丁重にお骨を納めます。これで未来永劫ここにお骨が安置されているのかと想像すると何だか時間を越えたメッセージが聞こえてきました。

その後、御影堂の外陣に移動しお勤め、焼香をしました。

なんとも暑い日でしたが、親鸞聖人のお膝元でのごそかな空間での出来事が暑さを忘れさせるほどの感動をいただきました。

今年の十一月二十六日には本山報恩講団体参拝バスツアーに行きます。みなさまもぜひ、ご参加下さい。



本山瓦工事

平成25年度 廣讚寺講決算報告

【20組行事】

- (づ)命日の集い『歎異抄に学ぶ』
午後1時半～3時半
- 九月 三日(水) 西祐寺
- 十月 十五日(水) 廣讚寺
- 十一月 五日(水) 真照寺
- 本山報恩講団参バス旅行
十二月二十六日(水)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	50,046	火災共済	42,880
廣讚寺講費 (223名)	557,500	建更共済	341,000
貯金利息	64	樹木剪定他	163,300
		講員香典	14,000
		次年度繰越金	46,430
計	607,610円	計	607,610円

行事予定

- 九月 十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)
- 十四日(日) 八時 庭そうじ
(昼おとぎ後、解散)
- 十九日(金) 二時～四時 学習会
- 二十三日(祝) 十時 **秋季彼岸会**
説教 廣瀬純史師
廣讚寺講総会
おかみそり
- 二十四日(水)
- 二十五日(木) 三時 彼岸お勤め
- 二十六日(金) 住職説教
- 二十八日(日) 十時 二十八日講総会
- 十月 十一日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)
- 十九日(日) 二時～四時 学習会
- 二十八日(火) 十時 二十八日講・女人講